

平成20年7月12日

社会福祉法人めぐはうすの活動と地域(商店街)との協働

社会福祉法人めぐはうす
川口宏一

<1. 社会福祉法人めぐはうすの主な事業>

- グループホーム『めぐ』(共同生活援助)
- 地域生活支援センターMOTA(相談支援事業、地域活動支援センターⅠ型)
※沖縄ショップ『ていんからゆがふう』
退院促進支援事業、夜間休日電話相談)
- 共同作業所まごの手便(精神障害者共同作業所Bランク)
- 被保護者居宅安定化支援事業(世田谷区よりの委託事業)

<2. 地域とのつながり>

- 平成14年に地域生活支援センターMOTAを設立し、その運営維持のため沖縄ショップを開店したところから、下高井戸商店街との関係が強くなり始める。
- 当法人では下高井戸商店街の一角に『地域生活支援センターMOTA』と『共同作業所まごの手便』の2施設が存在し、それぞれ違ったかかわり方での地域との協働が行われている。
- 地域生活支援センターMOTAでは、沖縄ショップの活動を通し、ユーザーがショップの店員をし、地域のお客さんと交流をもったり、商店街振興組合の事務所の手伝いを行ったりしている。また独自の事業として、クリーン大作戦と銘打ち街の清掃活動を月1回行っている。毎年恒例の商店街のイベントにも参加させていただいている。(さくらまつり、サマーフェスタ等)
- 共同作業所 まごの手便においては商店街とのかかわりより前に、地元を走る世田谷線(玉電)の絵はがき等を作成・販売していた。その作品が『日本交通趣味協会』の方の目にとまり、『まちこらぼ(世田谷線とせたがやを良くする会)』を通じて、『玉電100周年記念イベント』に参加協力させていただくことになり、そのイベントの一つが下高井戸商店街においても開催された。
※『まちこらぼ(世田谷線とせたがやを良くする会)』も赤堤に事務所を置く地元のNPO団体
- 現在では、商店街振興組合からの受注作業も請け負っている。
- 法人全体のかかわりでは、商店街振興組合の代表の方に当法人の役員として運営に参加していただいたりしながら、意見交換など活発にし新たな活動を模索している。

<おわりに>

- 当法人における地域とのつながりは、当初から計画されたものではなく、どちらかというといわゆる偶発的なものや試行錯誤中で結果として出来上がってきたものといえる。
- いわゆる「福祉」「援助」といったところではないつながりが出来上がってきている。これは、身近な地域において、自分達の活動が「何かの役に立っている」という感覚を得やすく、ユーザーの方達の意欲にもなりやすい。
- 「交流」「協働」というよりは、小さなことしかできなくとも「地域貢献」のできる施設・団体になっていければと考える。

詳しくはこちらを
お読みください！

